

コーンフレーク市場における 遺伝子組換え表示制度見直しに伴う 影響について

2017年 7月 19日

日清シスコ株式会社

開発研究所

表示グループ グループマネージャ

加島 貴光

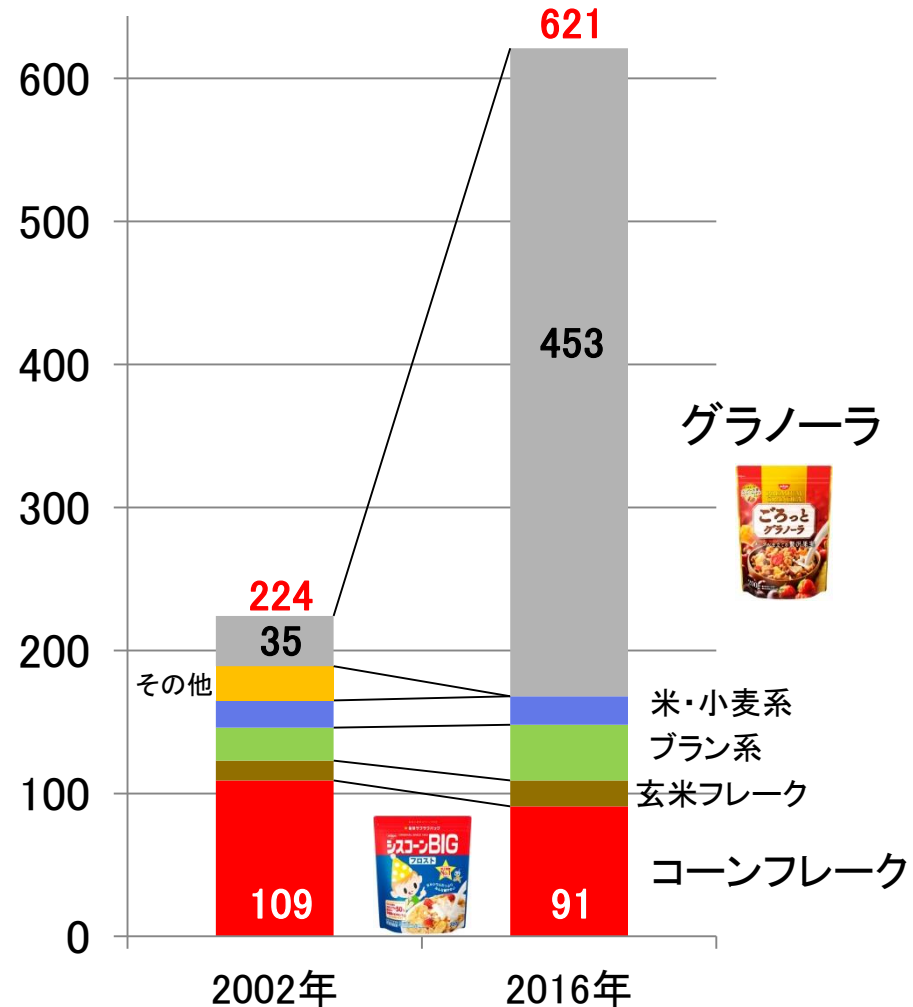


コーンフレークの市場について

- ・ 1963年頃より全国的な生産がスタート
50年以上親しまれている朝食シリアル
- ・ 簡便で食べやすく、子供の頃から親しみやすい朝食として日本全国に普及
- ・ 近年のグラノーラカテゴリーの伸長によりシリアル全体が注目されている
- ・ コーンフレークは90億市場、シリアル内で2番目のカテゴリー
- ・ 原材料であるコーンの大部分は輸入コーン
現在の最大使用量はアメリカ産の
非遺伝子組換えコーン
- ・ 現在のところ国内市場には遺伝子組換え
コーンフレークは見受けられない

シリアル カテゴリー別生産金額推移

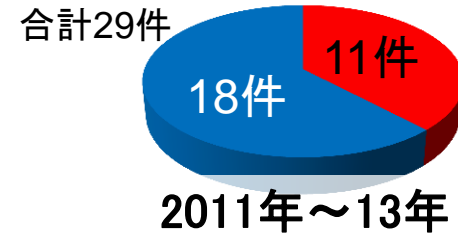
[億円]



日本スナック・シリアルフーズ協会 資料より

弊社への遺伝子組換え表示に関するお問い合わせについて

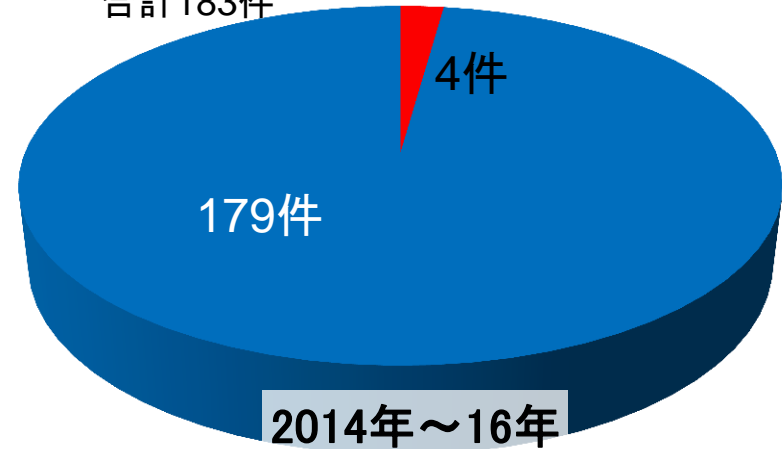
■コーンフレーク
■コーンフレーク以外



問い合わせ
全体
6.3倍

コーンフレーク
問い合わせ
約1/3

合計183件



期間	全件数	コーンフレーク	コーンフレーク以外
2011～2013年	29	11	18
全体に対する割合(%)	100%	38%	62%



期間	全件数	コーンフレーク	コーンフレーク以外
2014～2016年	183	4	179
全体に対する割合(%)	100%	2%	98%
期間比(%)	631%	36%	617%

- 近年問合わせの大部分は**コーンフレーク以外**原料表示上位(3位以内)ではなく、表示の見易さを考慮、「遺伝子組換えでない」表示を入れず→不安で問合わせ→聞くと安心
- コーンフレークの問合わせが、時代と共に減少→「遺伝子組換えでない」商品が浸透→お客様の安心感を醸成か？

「遺伝子組換えでない」表示は消費者の安心感に繋がっている

日本の遺伝子組換え審査体制で、
科学的に**安全**なのは証明済

But...

消費者の中には漠然とした**不安**が...

コーンフレークをはじめ、

子供に与える 機会の多い食品

→少しの不安も購買行動に強く影響



故に

法令等に従い商品を製造、「**安心**」の為にわかりやすく表示
実行可能な範囲でより詳しく、より正確な情報の提供

現行遺伝子組換え表示制度の振り返り(弊社の認識)

項目	内容	コーンフレーク関連トピックス
①適用食品群	組換えDNAやたんぱく質が 検出されない 食品への適用は除外	従来コーンフレークはDNAの検出技術が十分確立されていなかった為、 表示対象外品目 であった
②意図せざる混入	意図的なものでない限り、 5% までを許容	分別管理でも農場での混入をはじめサイロ・カントリーエレベータなど機械の共用、輸入時の船での混入など、不可避な工程は幾つもあり、 実行可能な範囲 (5%)として設定されたと認識
③表示の義務	原料表示第3位まで、かつ5%以上の原材料のみ	-

コーンフレークが表示義務対象品目となることについて

現在、検出技術の向上により **コーンフレークの検査が可能** に（第一回検討会資料より）

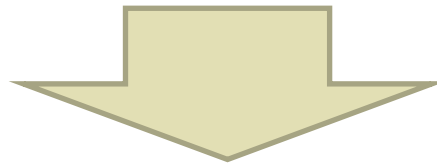
内容	弊社見解
遺伝子組換え 表示義務化品目となること	<p>容認できる</p> <p>今後に目を向けた場合、将来的には遺伝子組換えコーンを使用した安価なコーンフレークが登場する可能性もあり、消費者の「選択の自由、知る権利」を守り、市場の混乱を避けるためにも、任意ではなく表示を義務化することは望ましいと考える。</p>
今回の義務化による 現在の国内市場への影響	さほど大きいとは考え難い

（現在のところ弊社としても表示根拠裏づけの為、グリッツ輸入ロット毎の
混入度合いを自主的に分析して、安全・安心を担保している）

意図せざる混入率の見直しについて



栽培環境	風で花粉を飛ばして受粉する 風媒花 組換え遺伝子が 農場で直接混入 する可能性あり
輸送・流通	分別 流通過程 において、様々な意図せざる混入が起こり易い穀物 (サイロ、カントリーエレベータ、コンテナ船など)
品種	複数の耐性遺伝子を1つの種子に同時に持つ 「スタック品種」 の作付が増加(アメリカなど) 組換え遺伝子の導入は 増加の一途
分析方法	検討会によるnonGMO混入分析結果(スクリーニング検査法による) nonGMコーン中 → 0~4.1% GMコーン中 → 199~488% (通常は最大でも100%) → 現行スクリーニング検査法ではGMコーンの 混入分析指標になり得ない



GMコーンの混入を短時間で正確に定量分析できるメソッドの確立が最優先
その上で、必要に応じて意図せざる混入率の見直しを検討すべきでは

- ・ 組換えDNAが検出されない食品について、表示義務対象にすることに対しては慎重な議論・判断をお願いしたい。



国の審査制度による安全性の上、更に組換えDNAやたんぱく質が存在しない食品を表示義務対象にした際、メリットを受ける消費者はどの程度存在し、それ以外の消費者が受けるデメリット※がどれだけ生じるのかを把握の上実効性のある検査体制のあり方を含めご検討頂きたい。

※ 安全性に関する情報の埋没、コストUPなど

今後予想されるコーンフレーク市場への「意図せざる混入率引き下げ」の影響

- 仮に意図せざる混入が引き下げられた場合、

引き下げ率	詳細
下げ幅 小	nonGMO生産者・輸入者へのプレミアムコスト増加
下げ幅 大	米国からの輸入が不可能となる事態も？



- 遺伝子組換えとうもろこしを生産していない国からの輸入を検討した場合、

懸念点	詳細
①品質面	味・食感・見た目などの低下
②安全性	残留農薬、重金属、異物混入
③チェック体制	体制再構築の為の経営資源(人材、時間)の消費

→市場にある大部分のコーンフレーク商品は、何らかの形で
値上げせざるを得ない状況になるのでは

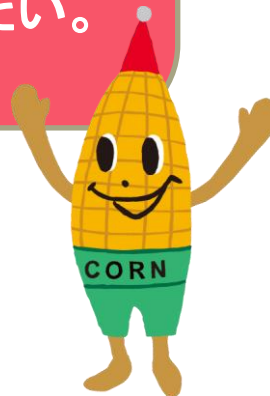
最後に(本検討会の今後に向けての要望)

基本的に、決められたルールを正しく運用することが企業の社会的責任。

→今回決められた内容に従い、その中でよりよい商品を作っていくことが使命



- ・ 今回の検討については、**科学的な視点**での議論を。
- ・ 様々な規模の企業にとって**実行可能性の高い**仕組みを。
- ・ 国民が**本当に知りたい情報**を選び、コスト面を考慮して設定頂きたい。



もっと楽しく、健やかに。



ご清聴ありがとうございました